

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	医療法人社団高台病院 グループホームはしどい	評価実施年月日	平成21年 1月 8日～ 2月20日
評価実施構成員氏名	(2F) 今 美乃 土橋 和江 山下 美樹 土居祐見子 沢里 大介 田中 涼子 阿部 伸子 遠藤智佳子		
記録者氏名	今 美乃	記録年月日	平成21年 3月12日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	はしどい独自の理念は「新しいわが家」を目指す事を理念としたものを4つ掲げ、ご家族や来訪された方にも分かるよう玄関やフロアに掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	玄関や各スタッフルームに理念が掲示してあり、また、身分証の裏にも記入しており、スタッフは日々理念を意識しながら実践に取り組んでいる。		
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	地域の商店に入居者様と共に買い物に出かけたり、定期的に運営推進委員会を催し、パンフレット、はしどい便り、行事予定表などをお見せして、理念を理解していただくよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所の方とは入居者様と散歩時などに、お話ししたり庭の花を見せていただいたり、また、はしどいの畑で収穫した野菜を届けるなど少しづつだが交流出来るように努めている。		
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のお祭りに出掛けたり、敬老会で地域のボランティアの方に尺八の演奏を聞かせて頂いたりしている。		
6		事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進委員会の中で、高齢者介護や高齢の方に役立つ情報などを載せたプリントを配布している。		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義は全員が理解している。改善事項に関しては会議等で意見を出し合い、直ちに早期改善に向け取り組んでいる。		
8	5	運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域の民生委員や町内役員、入居者様のご家族の代表も参加され、はしどいの年間行事を説明し、皆さんからの意見も傾聴している。頂いた意見は検討し、取り入れている。		
9	6	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	札幌市管理者連絡会議に出席し情報の交換を行っていて、新たな意見や希望があれば取り入れている。		
10		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	実際に後見人制度を利用している入居者様もいらっしゃり、職員も成年後見制度について、理解している。		
11		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	会議時に虐待防止のプリントを配布し、勉強に取り組んでおり、職員の中に虐待防止は浸透している。また、言葉での虐待に繋がらないよう思いやりのある優しい言葉がけを常に意識している。		
4. 理念を実践するための体制					
12		契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は十分な時間をかけ説明し、理解を得ている。質問等に関してもその場で説明し、理解していただいている。		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様からの意見、不満等はすぐ施設長に報告し、臨時に会 議を設けて話し合っている。改善点は運営に反映させている。		
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をし ている。	定期的なはしどい便りの送付や、近況をお知らせするお手紙を 写真と共に毎月送付している。その他、特変があればその都度 ご家族に電話で報告したり、面会時に話をさせていただいてい る。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ 表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	「皆様の声」という箱を玄関に設置し、来訪された方に説明して いる。また、契約時には外部に苦情窓口があることも説明して おり、意見があった場合には直ちに臨時会議を開き運営に反映さ せている。		
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている。	毎月の会議や朝の朝礼時など発言できる機会があり、反映させ ている。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努 めている。	その都度変化が起きた時に柔軟な対応ができるよう勤務調整し ている。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けら れるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる 場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	はしどいは一つであるという考えのもと、常に各フロアーの職員 は他のフロアーの事も把握している。また、行事は常に合同で するため、入居者様にとっても他のフロアーの職員にも馴染み の者が多くなり、安心して支援を受けられるようにし、入居者様 へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
19	10	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>札幌市や道の研修など積極的に参加するように働きかけ、順次研修を受けられるように確保し、働きながらトレーニングしていく事を進めている。</p>		
20	11	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>札幌市管理者連絡会議や各区の集まり、札幌市の研修などに出席し、同業者と交流する機会を持ち、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21		<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>夏休みをとったり、親睦会等でストレスの解消をはかったり、業務上の悩みはその都度施設長・管理者に助言を受け、早期にストレスを軽減するための工夫をしている。</p>		
22		<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員の個々の努力や実績・勤務状況を踏まえて、更なるステップアップを促し、それを達成した時は会議等で発表し、職員間で喜びを共有するように努めている。</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご本人が困っている事、不安な事等をご本人との会話・職員の声かけの中などから傾聴するように日頃より心掛けています。</p>		
24		<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご家族から困っている事、不安な事、求めている事をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>施設長、管理者、ケアマネージャーで会議等を持ち、ご本人とご家族が必要としている支援を見極め、他のサービスの利用も含めた対応に努めている。</p>		
26	12	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>事前にご本人とご家族には施設内を見学していただいている。ご本人が徐々に馴染めるように体験入居も実施している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>入居者様がこれまで生きてきた人生を尊重し、昔話を傾聴して、個々のリズムに合わせ、毎日穏やかに笑顔で生活していただけるように支援している。一緒にレクリエーションを楽しんだり、家事のお手伝いをして頂き、支えあう関係が築かれている。</p>		
28		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>入居者様をご家族の様に思い接しさせていただいており、気になることがあれば小さな事もご家族に相談するようにしている。また、ご家族の知らない部分もある為、日々の様子を報告している。また、敬老会は入居者様とご家族の色々な面を知り、交流を深められるため、ご家族の参加をお願いしている。</p>		
29		<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>入居者様の思いとご家族の思い、それぞれを職員は受け止めている。時には入居者様の気持ちをご家族に代弁したり、ご家族の気持ちを何度も入居者様に伝えている。電話を取り次いだり、面会も自由にしていただいております、良好な関係を保たれている。</p>		
30		<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>入居者様の今までの生活歴を職員は十分理解し、関係が途切れないようお手紙や電話などでご家族に協力いただきながら支援している。</p>		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	集団レクリエーションを実施して楽しんで頂き、交流の場を作っている。孤立しがちな入居者様には好きなカラオケ等で歌って頂き、他の入居者様との交流を図っている。折り合いの悪い入居者様同士には職員が間に入りトラブルが起きないように対応している。		
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入居者様が退去される時など、情報を提供したり、その後、状態がかわった時には、情報を提供している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様に直接話を聞いたり、希望を表出できない方には毎日の生活を見ながら何を望んでいるかをくみとり意向に副うよう努力している。		
34		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	今迄どのような暮らしをしてきたのか、ご家族にも情報提供をして頂き、生活歴や、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
35		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	お身体の変化や行動を見守り、申し送りやカンファレンス等で気付いた事を話し合い情報を共有しており、一人ひとりの生活ペースを尊重している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	センター方式を取り入れ、ご本人がどうありたいのかを考えた介護計画を作成している。ご家族には書面や、面会時等に意見を頂いている。担当者や他の職員は、カンファレンスで意見を出し合い、モニタリングやアセスメントを通して共有した計画を作成している。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	変化が生じた場合は、都度担当者・ケアマネージャーを中心に検討し、ご家族からも意見を頂き、現状に即した新たな計画を立てている。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やご本人の言葉を生活記録に記入したり、個別に支援経過記録をつけ、情報を共有しており、計画の見直しに活かされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の消防署員の協力を得て、救命処置の訓練を実施しており、ご本人の意向や必要性に応じて支援している。		
41		他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ケアマネージャーは市や道主催の研修を受け、他の地域のケアマネージャーと意見交換することはあるが、入居者様は他のサービス(介護保険適用以外)は利用していない。		
42		地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの主任ケアマネージャーの方に出席頂き、話をして頂いている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	18	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	高台病院が母体であり、同病院の医師・看護師とは連携がとれている。		
44		認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	母体が高台病院の為、医師に診療や相談を受けられる様なシステムは整っている。		
45		看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	高台病院が母体で、医師や看護師に相談が出来る体制であるが、現在は常勤の看護師は不在である。		現在ホーム内に看護職は不在であり、通院に頼っている為、早期に確保し入居者様の健康管理に努める。
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	管理者や職員が定期的に病院へ出向き、病院関係者と、情報交換をし、退院に向け相談している。入居者様の退院時の様子は申し送り等で把握している。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階からご本人やご家族やかかりつけの主治医と十分に話し合い、全員で方針を共有しており、施設等の紹介の支援をしている。		現在は終末期については対応しておらず、今後検討していきたい。
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化した場合は、まず入居様がより良く暮らせるよう事業所の「できること・できないこと」を見極め、ご家族やかかりつけの医師と充分話し合い、チームとしての支援に取り組んでいる。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49		住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	グループホームから別の居宅へ移り住む際、ご家族及びご本人に関わるケア関係者と十分な話し合いや、情報交換を行い、ダメージを少なくするよう努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	各居室は施錠できるようになっており、プライバシーは守られている。一人ひとりを尊重した言葉掛けをいつも心掛け、失禁時等は目立たないよう居室等に対応している。職員は個人情報の取り扱いを理解し、個人情報の守秘義務を守っており、誇りやプライバシーを損ねるような記録等の個人情報の取り扱いをしていない。		
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	ご本人にわかるようわかりやすく説明し、なるべくご本人の意思を尊重できるよう支援している。また、自己決定が難しい方には表情を見ながら、何を希望されているのかくみとるよう努めている。		
52	21	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々の生活ペースがある為、無理強いせず、体調や生活リズムに合わせ、その人らしく穏やかに過ごせるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ご家族とも相談しご本人に合った洋服を用意して頂き、日々その人らしいおしゃれができるよう支援している。理美容は希望に副い定期的に訪問してもらい実施している。身だしなみは更衣時、洗面時等細かな対応を心掛けている。		
54	22	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	それぞれの入居者様に合った調理の工夫や食事量を把握し見た目の彩りにも気を配っている。入居者様と職員は明るい雰囲気の中で一緒に食事をしている。片付けは表情を見ながら声がけし、お手伝いして頂く事もある。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物はご本人の希望されたものを出している。また、おやつは入居者様の嗜好品も取り入れ、毎日違う物を出して楽しんで頂いている。		
56		気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の方の排泄パターンや習慣を職員が熟知して細かな声掛けや介助を実施している。車椅子の方には希望時、すぐ対応し、尿意・便意のない方には定期的に誘導し気持ち良く排泄して頂けるようにしている。		
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日は希望の曜日がある方は取り入れ、特に希望日のない方は定期的に声をかけ意思を確認した後、バイタルチェックを行い、ゆっくりと気持ちよく入浴を楽しんで頂いている。		
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	お昼寝される方もおり、声掛け、介助をしている。睡眠に関しては、夜間は巡回時以外にも安全に休まれているか見守りをしている。なかなか寝つかれない方には温かな飲み物を少し飲んで頂き、話を聞くなど安眠の為の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	季節の行事を取り入れ、花見や外食、または買物などで外出し、気晴らしをしている。毎日のレクリエーションには入居者様の得意なことや興味のあることを実施し笑顔で楽しんで頂ける様、支援している。		
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在、日常の金銭管理ができる方はおらず、お小遣いは事務所で管理している。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ご家族と連絡をとり同伴で外出したり、天気の良い日は職員対応にて近道を散歩したり、畑の手入れをして頂いている。		毎日買物を希望される方が居るが、すべてに対応できておらずご家族や職員以外の同行者を検討していきたい。
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	花見や外食など他の入居者様と出かけられる機会も設けられている。 ご家族との外出がなるべく多く出来る様、ご家族にご様子をお伝えする等して支援している。		個別の外出希望に関してはご家族の協力を得ているが充分とは言えず、検討していきたい。
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人が希望された時はすぐスタッフが電話をつなぎ対応している。また、ご家族を捜し不安な表情をされている時は、職員の方から電話をし、ご家族の声を聞いて頂いている。		
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会はいつでも自由にして頂いている。ご家族の訪問が一番嬉しい事であり、ゆっくりして行かれるよう声掛けし、居室やリビングで飲み物を飲みながら楽しく過ごせる様支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全体会議などで身体拘束禁止の勉強をされており人権を尊重し全ての入居者様に対し拘束しない事を職員全員理解している。また、そのような状況にならないケア実践の為、職員同士も確認し合っている。		
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関、エレベーター、階段の出入り口等にセンサーがあり、センサー音で察知出来るので鍵をかけることはなく、鍵をかけることの弊害を理解している。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67		<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>日中リビングで過ごされる入居者様に対して、まわりに危険な物がないか、家具の周辺にも気を配り日中は3名で見守りしている。夜間は1名だが、巡回以外にも細かな見守りをしている。</p>		
68		<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>調理用の刃物類、洗剤は決まった場所に保管し、施錠している。</p> <p>爪切りやハサミなどは一人ひとりの状態に応じて、居室で保管したり、見守りの中、使用している。</p>		
69		<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>歩行困難な方にはすべて手引き介助をし、夜間混乱して歩いて歩こうとする入居者様には、布団に鈴をつけ、介助に行っている。転倒があれば事故報告書を作成し、提出している。会議等で問題点を話し合い、防止に取り組んでいる。</p> <p>服薬は職員2名で確認し、2重チェックをして誤薬のないようにしている。</p>		
70		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>応急手当のマニュアルに従い、全ての職員が対応できるようになっている。</p>		
71	27	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>避難訓練は入居者様も参加し、定期的に行っており、職員は消火器の使い方などの訓練も行っている。</p>		
72		<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>入居時にご家族に今後起こり得るリスクについては充分時間をかけ説明している。変化のあった時はすぐご家族に連絡し、今後の対応も話し合っている。</p>		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝、欠かさずバイタルチェックを行っている。少しの変化がある場合も施設長に報告し、早期に受診している。また、申し送りの中で、排尿・排便の様子も加えて申し送りされており、情報の共有と対応ができるようになっている。		
74		服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の用法については職員全員が処方箋を見て理解している。薬は誤薬のないよう職員2名でチェックしており服用時は職員が入居者様と、薬袋に書かれている名前を声に出して、確認している。		
75		便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	一人ひとりの排便は毎朝施設長に報告し、指示をもらっている。水分不足の入居者様には声かけを欠かさず、車椅子の入居者様には運動不足であることを伝え、少しずつ歩行の練習をして頂いている。午前・午後のラジオ体操、リハビリ体操も実施して体を動かす様に働きかけ取り組んでいる。		
76		口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一日3回、食後の口腔ケアを見守りや介助にて実施。毎回うがい薬でのうがいも行い、週1回、義歯の消毒も行っている。		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士が献立を作成し、それに副って調理している為、バランスのとれた食事ができている。水分量はケア・チェック表で摂取量が一目でわかるようになっており、一日の必要量は確保出来る様に声掛けの支援をしている。		
78		感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	年一回、インフルエンザの予防接種を入居者様と職員が全員している。職員は感染予防マニュアルに目を通し、食事時の手の消毒やトイレ内の床や手摺りの消毒を励行し予防に努めている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79		<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>毎日の調理用具の消毒と、週に1回、冷蔵庫の消毒と点検を実施している。食材は毎日新鮮で安全なものを購入し、1日で使いきるようにしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関はバリアフリーになっており、安全に靴がはけるよう腰掛けも設置されており、花を飾り玄関フロアーも明るい雰囲気になっている。建物周囲は冬はロードヒーティングが使用でき、防犯対策に明かりがつくように工夫されている。</p>		
81	29	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>リビングにその月の行事に合わせて、タペストリーや置き物が置いてあり、季節感がでるよう工夫されている。採光は、レースのカーテンで調節し、不快感を持たれない様、配慮している。</p>		
82		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>廊下の椅子やリビングのソファ、食卓などでテレビを見たり、入居者様同士で気軽に話せる居場所の工夫をしている。</p>		
83	30	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご本人の使い慣れた生活用品が持ち込まれており、大切なご仏壇や、馴染みの家具、人形、写真を置かれ、心地良く過ごされている。</p>		
84		<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>入居者様の体調に配慮しながら、毎朝換気を行ない、冬期間は暖房も調整し、リビング内には温度計・湿度計をかけ、乾燥防止の為、加湿器を置いて湿度も保っている。</p>		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>床はバリアフリーになっており、歩行しやすくなっている。手摺りが、廊下、トイレ、浴室など要所に設置しており、安全かつ、できるだけ自立した生活が送れる様に工夫されている。</p>		
86		<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>それぞれの居室には、入口にご本人の氏名写真が貼ってあり、トイレも絵のマークをつけ、わかりやすい様に工夫している。場所のわからない方には、都度声掛けし、自立して暮らせるように支援している。</p>		
87		<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>外に畑があり、ベンチに座って入居者様が、ゆっくり出来る様になっており、入居者様の皆さんと一緒に苗植えや、水遣りをし、楽しんで収穫もしており活動の場になっている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の左横に 印をつけること)
		印欄
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

はしどいの理念にあるような“その人らしさ”を大切に、入居者様が毎日、楽しく穏やかに、御健康で暮らして頂ける様、本当のご家族のように思い接しさせて頂いております。“自分の親だったら、自分の祖父母だったら”といつも思いながら、入居者様と接する事が大切であり、職員全員が、毎日入居者様と共感し、受容しながら実践しております。
職員は皆、本当に優しく、“はしどいの宝”と職員に話しており、仕事に取り組む姿勢が非常に前向きで、資格を取る為、勉強しています。
また、入居者様が一番楽しみにしているお食事は、国内産の安全な食材を使用し、手作りしております。食欲が出るよう、盛り付けや彩りにも工夫して、皆様に大変喜ばれております。